



社会福祉法

くにたち子どもの夢・未来事業団

2024 法人案内



社会福祉法人

くにたち子どもの夢・未来事業団

法人経営室 〒186-0003 東京都国立市富士見台4丁目17番地の65（矢川プラス内）

TEL 042-505-6226 FAX 042-505-6270

HP <https://yagawa-plus.jp/facility/kunitachi-j/>

Mail sec_keiei@kunitachi-j.or.jp

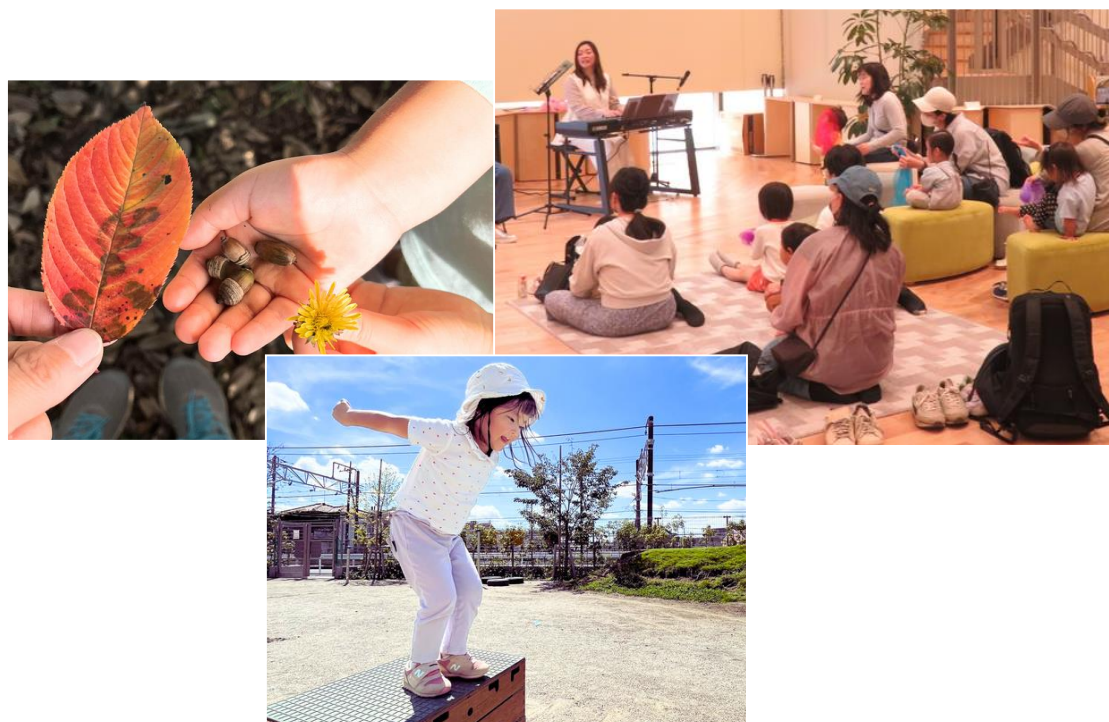


子どもと創る、未来のまち

子ども一人ひとりが夢と希望を叶え、未来に向かって光り輝く、次世代
育成のまちづくりに貢献します

くにたち子どもの夢・未来事業団は、国立市が設立母体の社会福祉事業団として、2019年9月2日に設立された社会福祉法人です。当法人は、国立市が推し進めるソーシャル・インクルージョンのまちづくりの理念の下、その一環として、2021年度からの保育園運営をはじめ、保育・幼児教育環境を積極的に向上させるべく、必要な調査・研究・実践に熱意をもって取り組んでいます。

そして、子ども一人ひとりが夢と希望を叶え、未来に向かって光り輝き、自立した生活を営むことができるよう、次世代育成のまちづくりに貢献し、「子どもの最善の利益」が実現される社会を目指しています。



理事長挨拶

“幸せに生きたい”という願いは、長い人類の歴史のなかで誰もがずっと持ち続けてきたものです。その“幸せに生きるための力”を身に着けるため、人間は子どもたちに思いを込めて〈育てる〉という営みを行ってきました。

これまで人間が幸せに生きるために大事にしてきたことが3つあります。

“体で覚えること”。経験を積むことによって、体にさまざまな文化やワザを刻み込み、それを使いこなしながら文化を創造していきます。

“みんなで考え議論すること”。一人だけでは解決しないことを、みんなでいろいろ話し合い、やっと生まれたアイデアや発見と出会った時の感動は、人生のなかでとても大きな感動となります。

“他者と豊かに関わること”。お互いの心が理解できて、豊かな共感の中で、自分の存在価値が生まれ、人間にとっての幸せを感じられるものです。どれだけ豊かに共感できる人間になるかが大事と考えます。

そして、何よりも子どもを真ん中に親子が共感し合い、そして、家庭がいろいろな人や地域と豊かに関わり、幸せを感じながら生きることが大事です。

人間が大事にしてきたこれらの事を、乳幼児期から保育・幼児教育のなかでいてねいに身に着けていくことが、生きる力に繋がります。これこそが事業団が取り組む重要なテーマとなります。

国立市は行政の目が行き届く、ほどよい広さのまちで、多様な文化・資質をもつ人たちが孤立する事なく共に暮らせるソーシャル・インクルージョンのまちを目指しています。そして、全ての子どもの幸せ、子ども一人ひとりがありのまま自分らしく夢に向かって生きることを願い、子育て支援の取り組みを進めています。

幸せな社会をつくることは、平和にも通じることです。

全ての子どもが幸せになってほしい、そのために事業団に何ができるか、何をすべきか。国立市と両輪になって、事業団の取り組みが、子育て支援の中核的な役割を果たしていくことを切に願い、“子どもの夢と未来”に向かって、みなさんと共に考え取り組んでまいります。

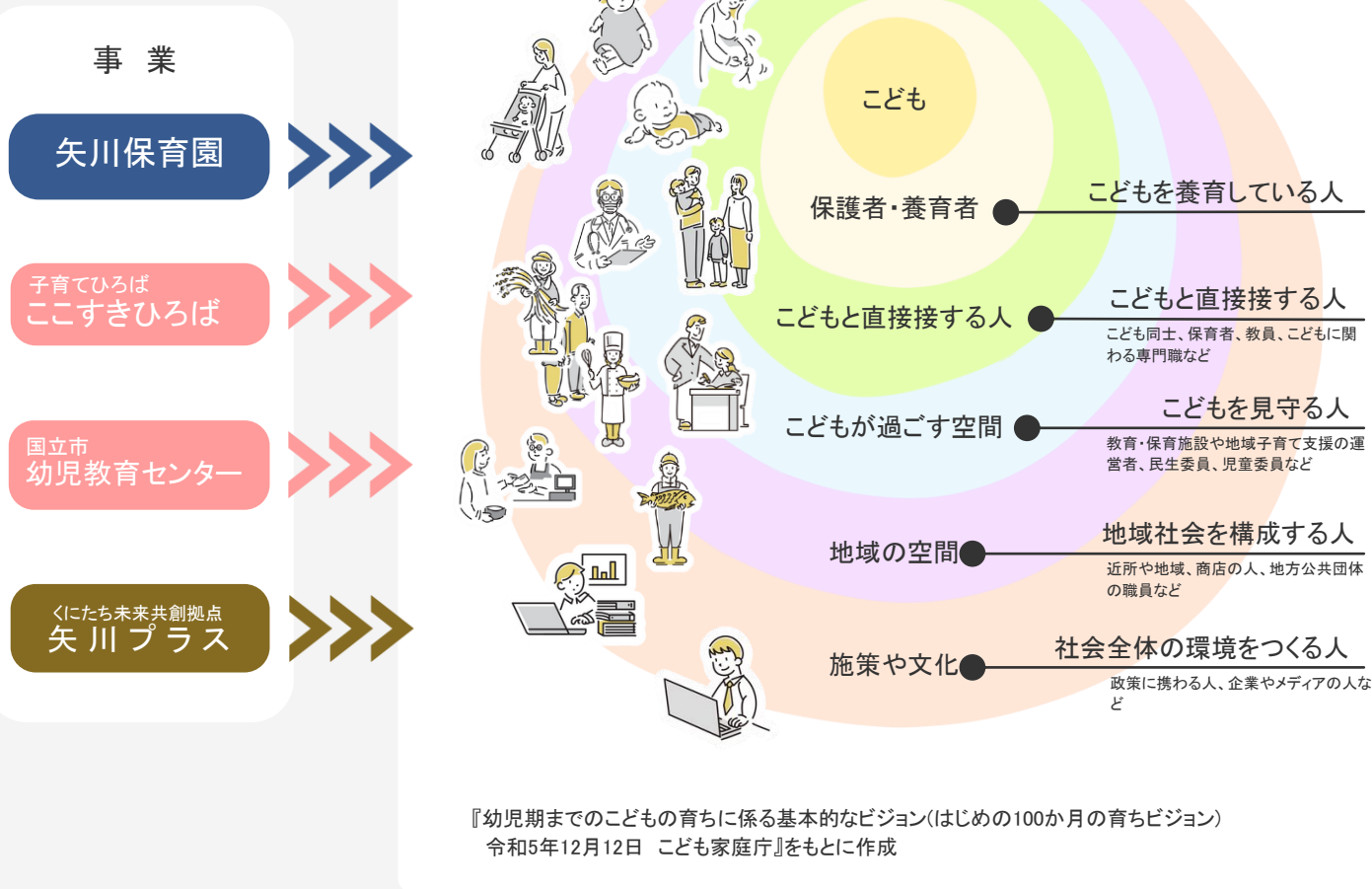
社会福祉法人
くにたち子どもの夢・未来事業団
理事長 汐見 稔幸



事業内容

こどもを取り巻くあらゆる人に働きかけ、こどもをまんなかにつながり合う地域社会の醸成と活性化に取り組むとともに、こどもの育ちを支える環境の充実と乳幼児期からの保育・幼児教育の質の向上に取り組めます。

私たちは、保育園、子育てひろば、幼児教育センター、多世代交流施設の運営を通じて、こどもとこどもを養育している人、こどもと関わる専門職、こどもを見守る人、地域社会を構成する人、社会全体の環境をつくる人など、こどもを取り巻くあらゆる人に働きかけることができます。その活動を通じて、地域に豊かな子育て環境を創造し、こどもまんなか社会の実現に寄与します。



経営理念

くにたち子どもの夢・未来事業団は、ソーシャル・インクルージョンのまちづくりの理念の下、全ての人々が共に生き、子ども一人ひとりが夢と希望を叶え、未来に向かって光輝き、自立した生活を営むことができるために、乳幼児期からの丁寧な関わりによる育ての保障と子育て家庭の豊かな暮らしにつながる取組を追求します。

基本目標

豊かな子育て環境を創造するため、その源となる自然や地域の文化を重んじ、多世代・多様な主体が関わるような地域社会の活性化とそれと連動した子ども育成活動を充実させるとともに、乳幼児からの保育・幼児教育を充実させ、その質を高めていきます。この取組をもって、次世代育成のまちづくりに貢献し、「子どもの最善の利益」が実現される社会を目指していきます。

矢川保育園

国立市が策定した『国立市保育整備計画(平成29年11月)』に基づき、市立矢川保育園が2021年4月に民営化され、民営化後の矢川保育園の運営をくにたち子どもの夢・未来事業団が担っています。

矢川保育園の目標

『みんなで 楽しくあそぼう… 明日も！』

- 人と人とのつながりを通して、自分も他人も認め合い、大切にできるように。
- 遊びは子どもたちの学びそのもの… 探索活動を存分に楽しみ、夢中になって友だちと遊ぶ中で、社会性、自分で考え判断する力、創造する力が培われます。
- 今日の友だちとの楽しさを、明日へつなげていけるように。

矢川保育園の概要

基本理念

- ソーシャル・インクルージョンの理念の下、子どもの最善の利益とかけがえない生命を守る。
- 子ども一人ひとりが夢と希望を叶え、未来に向かって光輝き、自立できる子どもを育成する。

基本方針

- 生涯にわたる人間形成の基礎を担う重要な乳幼児期に人への安心と信頼を育みます。
- 全身を使って楽しく遊び、食事、睡眠、排泄等の快い生活習慣を身につけていきます。
- 自分の体「命」を大切に、「自分と同じように大切な仲間」と共感できる心を育てます。
- 人との関わりを通して、一人ひとりが自分の気持ちや考えを十分に表現できる豊かな心を育てます。
- 保護者・家族の生活を支える一役を担い、地域の子育て家庭や保護者を支援していきます。

建物構造	鉄筋コンクリート造 一部木造 地上2階建
建物・敷地面積	延床面積 885.78㎡ 敷地面積 1660.02㎡
建物区分	保育室(0歳児、1歳児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児) 遊戯室、一時保育室、(仮称)アトリエスペース、調理室、事務室 他
定員	0歳児 6人 1歳児 18人 2歳児 18人 3歳児 20人 4歳児 22人 5歳児 24人 合計 108人

沿革

- 1971年
国立市の2園目の公立保育園として都営矢川北アパート19号棟の1階部分を東京都より借用し開園(旧園舎)。
- 2013年12月
東京都の都営矢川北アパートの建替工事に伴う耐震調査を受けて、都営矢川北アパートの保育施設の耐震基準が、市の基準値に満たないため、仮設園舎(谷保6800番地の2他)へ移転。
- 2017年
国立市は、市の財政健全化の施策検討を経て公立保育園の民営化の方向性を整理し『国立市保育整備計画』を策定。この計画の中で国立市が「社会福祉法人国立市社会福祉事業団」を設立し矢川保育園を運営していくことが決定。
- 2019年9月2日
国立市社会福祉事業団設立準備会での検討を経て、社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団を設立し、2021年度からの矢川保育園の事業団運営による新園舎開園に向けて準備を進める。
- 2021年
3月16日付けで東京都知事から児童福祉施設設置認可を受け、4月1日から新園舎(富士見台4丁目17番地の64)において運営を開始。



くにたち未来共創拠点矢川プラス

つどう
+ つながる
+ つくりだす
= みんなでつくる

矢川プラスは、みんながつどう「まちなかのみんなの居場所」。

あらゆる世代の人々が利用できる機能をそろえた、だれでも、目的がなくてもふらっと立ち寄り、思い思いに楽しむことができる、居心地のよい空間です。

矢川プラスは、みんなをつなぐ「おおきな家と庭」。

そこにつどう人々が交流し、それぞれの活動のチカラがつながって、大きなチカラを生み出すことを応援していく場所です。

矢川プラスは、「まちの元気と未来」をつくりだす場所。

つどい、つながったチカラは、まちの元気をつくりだし、それは未来を支える子どもたちの豊かな子育て・子育てを支えていくチカラともなっています。

矢川プラスは、この場につどい、つながったみんなできつっていく場所。

ここをどんな「場」にしたいかも、ここでどんな「元気や未来」を生み出すかも、あらゆる世代がつどい、それぞれのチカラをつなげて、みんなで一緒に考え、みんなで一緒につくりあげていきます。

年間30万人がつどう施設「くにたち未来共創拠点 矢川プラス」を、当法人が指定管理者として管理運営しています。

矢川プラスは、「ここすきひろば」「児童館」など、子どもや保護者など子育て世代が利用する機能と、「みんなのホール」「みんなのひろば」「多目的ルーム」などの多世代が利用できる機能を同じ建物にまとめた複合公共施設です。矢川プラスの「プラス」は、フランス語の「place(広場)」と英語の「plus(加える・つながる)」から名付けられました。

私たちの社会は、超高齢社会・人口減少社会が進展し、人々を取り巻く暮らしの環境や人々の意識が変化しており、それに伴う課題も複雑多様化しています。このような時代においては、まちづくりの担い手である市民一人ひとりが、まちに誇りと愛着を持ちながら、主体的にまちづくりに関わり、まちと市民、市民と市民の間に新たな関係性を築いていくことが肝要です。

私たちは、矢川プラスを拠点に、まちぐるみで子育て・子育てを支援する豊かな地域を醸成し、次世代を担う子どもたちが、ここで本物の文化と出会い、共に学び合う中で、主体的に生きていく力を育むことができるよう取り組んでいます。また、子どもから高齢者まで、すべての世代が地域の一員として多様性を認め合い、こどもたちを真ん中につながることで、誰もがいきいき活躍できる、活力ある社会の構築に向け取り組むとともに、矢川プラスを介して、地域に新たなにぎわいを創出し、まちの未来を創造する拠点となるよう運営しています。



多世代で まちの「元気」と「未来」をつくる場所

多世代の子どもと保護者の居場所

矢川児童館
矢川児童館は、18歳までの子どもたちが集い、遊び、交流することができる施設です。

ここすきひろば
ここすきひろばは、0歳から就学前までのお子さんが、親子で安心して遊ぶことができる室内のひろばです。

こども縁側
ハンモックや、遊びをとおして様々な発見や学びに出会うことができる探究キットがあるスペースです。

さまざまな活動に利用できる貸出施設

多目的ルーム
長机と椅子を備えた、さまざまな活動に利用できるスペースです。

スタジオ
鏡や音響設備、楽器を備えたスタジオです。音楽やダンスの練習にもご利用ください。

多世代のみんなが集える共有スペース

みんなのひろば
芝生のひろばは、だれでも自由に過ごすことができる場所であり、イベント会場ともなる空間です。

みんなのホール
吹き抜けが開放的なホールは、自由にくつろぎ交流することができる空間でもあり、イベント会場ともなるスペースです。

とおり土間
ミニキッチンやテーブル、イス、ベンチを備えた共有スペースです。

スタディコーナー
読書や学習など、ひとりでゆっくりと集中したいときに利用できるスペースです。

国立市幼児教育センター（こどもラボ）

2023年度にオープンした「くにたち未来共創拠点 矢川プラス」内に国立市幼児教育センター(こどもラボ)、ここすきひろばが設置され、当法人が指定管理者として管理運営しています。

まちぐるみで子育て・子育てを支える新たな仕組みづくり

国立市幼児教育センター(こどもラボ)は、国立市が推進するソーシャルインクルージョンの理念のもと、「子どもの最善の利益」の実現にむけ、国立市がこれまでも進めてきた幼児教育に関する取り組みをさらに推進し、すべての子どもが自分らしく輝き、幸せに学び育つことを応援するための施設です。

国立市の子育ち・子育てをまちぐるみで支える新たな仕組みづくりの中心的な役割を担い、「実践」「研究・研修」「啓発」「連携」「発達支援」の5つの柱を中心として、多様な学びの機会を提供しています。

調査研究や他の組織などとの連携といった取り組みに加えて、皆さんが必要とする情報などをお聞きしながら、求められる展示やワークショップ、講演会、研修、情報発信等を企画しています。



情報発信

子育ち・子育てに関して、分かりやすく信頼できる情報や、イベント・講演会などの情報を紙面やSNSを通じて皆さまにお届けしていきます。



連携

幼保小の連携など、子どもをまんやかに保育・教育の専門職とともに学び合い、子どもの学びと育ちを切れ目なく支える仕組みづくりを進めています。



実践

子どもたちの育ちを支える質の高い環境をつくり、子どもの育ちを支えるとともに、すべての子どもの中にある自ら育つ力を応援できる関わりを社会に広げていきます。



発達支援

すべての子どもが自分らしく生き、育ち合えるように、ちがいがら学び合い、支え合い、ちがいを活かし合えるような環境づくりを進めています。



研究・研修

保育園・幼稚園・大学等と連携して幼児教育に関する実践研究を行い、その成果を広く社会に発信し、幼児教育の質の向上や子育ち・子育て環境の向上に貢献していきます。



また、子どもの発達をサポートできる市民や保育者の専門性を高めるための研修を、多様な専門家や実践者と連携しながら企画していきます。

研修体系					
キャリアアップ	施設長	幼保小会	外部	国内	海外
施設長・副施設長	キャリアアップ研修	施設長研修	施設長研修	施設長研修	施設長研修
主任保育士	主任保育士研修	主任保育士研修	主任保育士研修	主任保育士研修	主任保育士研修
保育士	保育士研修	保育士研修	保育士研修	保育士研修	保育士研修
保育補助	保育補助研修	保育補助研修	保育補助研修	保育補助研修	保育補助研修
保育士見習い	保育士見習い研修	保育士見習い研修	保育士見習い研修	保育士見習い研修	保育士見習い研修
保育士見習い見習い	保育士見習い見習い研修	保育士見習い見習い研修	保育士見習い見習い研修	保育士見習い見習い研修	保育士見習い見習い研修
保育士見習い見習い見習い	保育士見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い研修
保育士見習い見習い見習い見習い	保育士見習い見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い見習い研修
保育士見習い見習い見習い見習い見習い	保育士見習い見習い見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い見習い見習い研修	保育士見習い見習い見習い見習い見習い研修

国立市幼児教育関連施設職員研修計画



幼児教育センター所長 細田 直哉

「今と未来を生きる子どもたちの幸せのために。」

子どもたちは今を生きています。今を幸せに生きることが、未来の幸せをつくる力を育んでいきます。国立市幼児教育センター(こどもラボ)は、子どもたちの今と未来の幸せのために、子どもたちの声を聴き、子どもたちとともに、まちぐるみで子育て・子育てを支える環境をつくっていきます。それは子どもだけでなく、誰もが豊かに、幸せに生きられる「未来のまち」のたねとなるでしょう。

ここすきひろば（国立市子ども家庭支援センター子育てひろば）

0歳から就学前まで、親子でありのままで。

「ここすきひろば」は、0歳から就学前までの子どもと保護者が安心して遊ぶことができる室内のひろばです。

「子どもとともに育っていく」視点を大切にしながら、ひろばに来れば日々の楽しさや大変さを誰かと共有できるように、また、まちに開かれた子育てひろばとして、すべての保護者や子どもと接点を持ち、つながっていけるよう心掛けて運営しています。

親子で参加できるイベントや、子どもの育ちや子育てについての講座・講習も開催していきます。



安心できる居場所の提供

ここすきひろばでは、おとな子どもも、ありのままで、安心して過ごして欲しいと願っています。お困りのことがあれば、スタッフにお声がけください。一緒に居心地のよい場を創っていきましょう。



相談・援助の実施

助産師や保育士、臨床心理士等の資格を持ったスタッフによる専門相談を実施しています。子育てに役立つ良質な書籍や資料が用意され、子育ての疑問や悩みなども、気軽に調べたりお話しできます。



地域の子育て情報の提供

子育て情報誌「ひろば通信ここすき」を発行するとともに、地域の子育てひろばとつながり、地域の子育て関連情報を収集し発信しています。また、SNS等の活用により、親しみやすい情報発信に努めています。



講座等の実施やグループの育成

各種講座を企画開催しています。また、同じ月生まれのお子さんのグループ活動や、同じ地域の親子が集うグループ活動など、パパ・ママが交流できるような活動のお手伝いもしています。



地域やボランティアとの連携

子育て中のママ・パパを支援する先輩ママ・パパ(ピア活動)や地域の高齢者ボランティア活動の支援をはじめ、他のボランティア団体との交流や新たなボランティア層の開発を進めています。



自然素材を生かした木のおもちゃを中心に、子どもが自由に遊びを創り出せるような環境を揃えています。



調乳用温水器や授乳室、子どもトイレやおむつ替えスペースも設置しています。

さまざまな発見や学びに出会える空間



こども縁側は、ネット遊具で思い切り体を動かして遊ぶ「動的な活動」と、「探究キット」で遊びをとおしてさまざまな発見や学びに出会う「静的な活動」のどちらでも自由にえらんで楽しむことができる空間です。

ハンモック(ネット遊具)

大人ものぼることができるネット遊具の下には、フローリングの縁側を設けています。子どもたちが自由に体を動かしてあそび、縁側ではお子さんを見守る保護者が交流できるスペースです。

探究キット

「探究キット」は、文化や科学、社会などのさまざまな「コト」に触れることができる玩具や教材などの「モノ」と、「コト」を学び探究するための「ヒント」をセットにしたものです。夢中になって遊びながら、子どもたちがさまざまな「コト」に興味をもち、大人の想像を超えた発見や創造をしてくれるような探究キットを取り揃えています。



法人の概要と沿革

(2024年4月1日現在)

法人名称	くにたち子どもの夢・未来事業団 (法人番号8012805002872)
所在地	郵便番号186-0003 東京都国立市富士見台4丁目17番地の65（くにたち未来共創拠点矢川プラス内）
連絡先	TEL 042-505-6226 FAX 042-505-6270
設立日	2019年9月2日
代表者	理事長 汐見 稔幸
基本財産	300万円(国立市の出資率100%)
構成員	評議員11名 理事10名、監事2名
認可施設	矢川保育園 (国立市富士見台4丁目17番地の64)
指定管理施設	くにたち未来共創拠点矢川プラス (国立市富士見台4丁目17番地の65)
沿 革	2019年 8 月 国立市より社会福祉法人設立認可を受ける 2019年 9 月 法人設立(9月2日) 初代理事長に汐見稔幸氏が就任する 2020年 4 月 ここすき！ひろば事業を開始 (2019年度まで国立市が直営実施していた事業の継承) 2021年 2 月 矢川保育園竣工 2021年 3 月 東京都知事から矢川保育園の児童福祉施設設置認可を受ける 2021年 4 月 矢川保育園開園 2022年10月 国立市からくにたち未来共創拠点矢川プラスの指定管理者として指定 2022年11月 くにたち未来共創拠点矢川プラスの指定管理業務を開始 2023年 4 月 くにたち未来共創拠点矢川プラス開業

経営方針

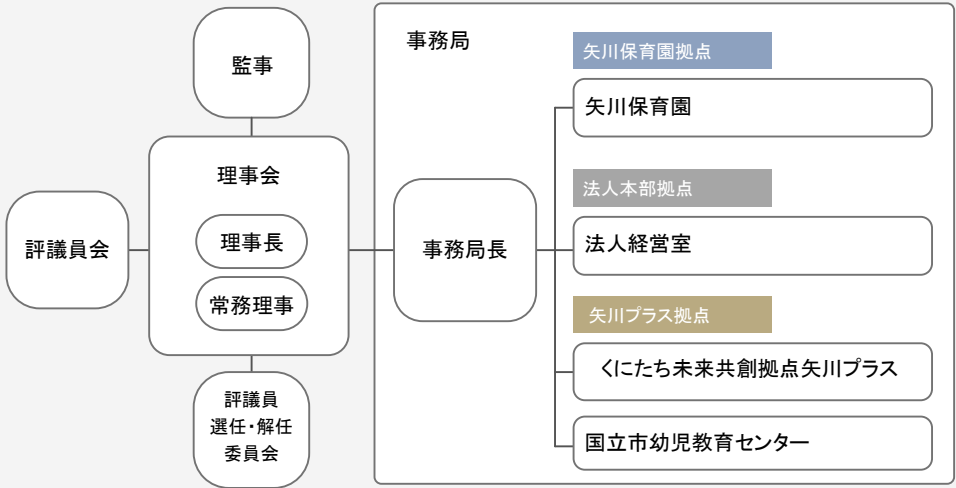
- 事業の実施に当たっては、一人ひとりがかけがえのない存在であると認められ、年齢・性、しょうがい、国籍、その他あらゆる事柄に起因する差別を受けることなく、共に暮らせる環境づくりに取り組みます。(基本原則・平等性)
- 子どもの育成を第一に考え、子育て家庭の声を大切に、支援のニーズを的確に把握し実行します。(信頼性・必要性)
- 施設運営や子育て関連事業の実施に当たっては、安全・安心を心がけ、信頼される運営に 努めます。(信頼性・安全性)
- 地域の共生という視点に立ち、地域の交流と力を大切にして、日頃から地域に根ざした活動をもって、地域全体で子育て家庭を支援する取組を進めます。(公共性)
- 子育て家庭の生活が豊かになるための取組を進めるに当たっては、創意工夫に心がけ、魅力的かつ創造的な取組を先駆的に進めるよう努めます。(発展性・創造性)
- 職員一人ひとりが生きがいをもって安心して働くことができ、組織全体が活性化し発展できる組織風土を造ります。(発展性・効率性)

シンボルマークについて

シンボルマークは、絵本作家はたこうしろう先生(当法人理事)によるデザインです。



組 織



理事一覧

氏 名	役職・経歴
汐見 稔幸	東京大学名誉教授 白梅学園大学名誉学長 日本保育学会理事(前会長)
平 康浩	くにたち子どもの夢・未来事業団事務局長
土井 晶子	東京女子体育大学・同短期大学教授
星山 麻木	明星大学教授
岩井久美子	矢川保育園園長
小澤 崇文	国立市私立幼稚園協会会長、国立ふたば幼稚園園長
操木 豊	国立市教育委員、社会福祉法人国立保育会理事
佐伯 元行	国立市私立保育園園長会会長、社会福祉法人あゆみ会理事長
西 弘美	元国立市教育センター長
秦 好史郎	絵本作家

職員数
(非常勤職員含む)

区 分	本部事務局	矢川保育園	矢川プラス	合 計
事 務 職	4	2	6	12
用 務 員		2		2
保 育 士		33	11	44
保育補助員		4		4
保健師・看護師		1	1	2
心 理 士			1	1
栄 養 士		2		2
調 理 師		4		4
そ の 他			1	1
合 計	4	48	20	72

予算規模
(2024年度)

事業区分	拠点区分	サービス区分	予算額(円)
社会福祉事業			265,297,000
	本部拠点	法人本部	22,954,000
	矢川保育園拠点	矢川保育園運営事業	242,343,000
公益事業			160,296,000
	矢川プラス拠点	矢川プラス管理運営事業	72,569,000
		子育てひろば運営事業	31,795,000
		幼児教育センター運営事業	55,932,000
収益事業	矢川プラス拠点	自動販売機管理運営事業	377,000
合 計			425,970,000